

項目	説明	
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	前立腺癌に対する重粒子線治療後の PSA 動態の検討
	研究目的	放射線治療は前立腺癌に対する根治的治療のひとつとして重要な役割を担います。治療後は血液検査による PSA(前立腺特異抗原)の測定により経過観察しますが、放射線治療後に再発がなくても一過性の PSA 上昇を認める症例がしばしばあります。この現象は PSA バウンスと呼ばれ、重粒子線治療後にもみられます。しかし、これまでに重粒子線治療後の PSA の推移に関する研究はありません。今回私達は前立腺癌に対する重粒子線治療後の PSA の推移について研究し、PSA がどのように推移しているか、PSA バウンスと再発の関連などについて明らかにします。
	研究対象者	2015年12月から2017年12月までに当院で重粒子線治療を開始した中間リスク群の前立腺癌の患者さんを対象とします。
	研究期間	西暦 2020年3月3日 ~ 西暦 2021年3月31日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)	<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input checked="" type="checkbox"/> その他(重粒子線治療計画データ) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録	
試料・情報の 管理について の責任者	当センター 研究責任者	高草木 陽介
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	放射線治療科 重粒子線治療部門
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	とくに共同研究機関はありません。